

(百年の礎を築く) - [戦略11] 熊本都市圏の拠点性向上～将来の州都をめざします～

(1)現状と課題		(2)概要				(3)施策体系				(4)県民アンケート結果															
<p>新幹線全線開業や政令指定都市移行により、人・物・情報等の交流が拡大しつつあります。この機を逸することなく、こうした効果を最大化し、県・政令指定都市の連携やハブ機能の強化により県内全域へ波及させるとともに、九州における熊本の拠点性を向上させることが求められています。</p>		<p>熊本の100年の礎を築き上げるため、九州新幹線の全線開業や熊本市の政令指定都市移行の効果を、県内全域に波及させるだけでなく、九州全体の浮揚にもつなげていくことが必要です。そのため、産学官による「くまもと都市戦略会議」などを通して、県・市の政策連携を強化し、相乗効果を最大化します。また、高速交通体系の機能充実など、九州におけるハブ機能を強化し、熊本が九州発展のセッター役の役割を果たすことで、“将来の九州の州都”実現につなげます。</p>				<p>① 州都をめざした取組みの展開</p> <p>◆ 州都を構想する ～州都をにらんだ構想づくりの推進～ 【担当部局：企画振興部】</p> <table border="1"> <tr> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>1</td> <td>1,940千円</td> <td>H26</td> <td>1</td> <td>1,903千円</td> </tr> </table>				H	事業数	決算額	H	事業数	予算額	H25	1	1,940千円	H26	1	1,903千円	<p>【満足度】</p> <p>H26 2.9 7.5 75.1 10.0 4.5 H25 3.0 9.9 68.1 12.7 6.3</p> <p>【今後の方向性】 10.6 (56.6%) (5位)</p>			
H	事業数	決算額	H	事業数	予算額																				
H25	1	1,940千円	H26	1	1,903千円																				
<p>★戦略指標〔単位〕</p>		策定時	H24	H25	H26	目標値		<p>◆ 拠点性を高める ～熊本型県・政令指定都市政策連携の推進～ 【担当部局：知事公室・企画振興部・商工観光労働部】</p> <table border="1"> <tr> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>5</td> <td>392,118千円</td> <td>H26</td> <td>5</td> <td>318,277千円</td> </tr> </table>				H	事業数	決算額	H	事業数	予算額	H25	5	392,118千円	H26	5	318,277千円		
H	事業数	決算額	H	事業数	予算額																				
H25	5	392,118千円	H26	5	318,277千円																				
i	<p>県・熊本市の政策連携協定数 (熊本県・熊本市政策連携会議で承認された取組み数) 〔項目〕</p>	- (H23)	5 <+5>	8 <+8>		毎年度着実に増加を図る 〔項目(累計)〕	<p>【満足度】</p> <p>H26 3.1 14.8 68.5 10.5 3.1 H25 3.9 12.7 62.6 14.8 6.0</p> <p>【今後の方向性】 4.3 (54.4%) (3位)</p>																		
<p>分析 取組内容については、県・熊本市の政策連携に関するものの中から県市の二役が決定する。H25年度は、3項目について県市が連携して取り組むこととなった。</p>		<p>ii 阿蘇くまもと空港の利用者数 〔万人〕</p>				279 (H23)	285 <95.0%>	301 <100.3%>	300 〔万人/年(単年)〕	<p>◆ 大空港構想を進める ～空港周辺地域のポテンシャルの最大化～ 【担当部局：企画振興部・農林水産部・土木部】</p> <table border="1"> <tr> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>9</td> <td>304,026千円</td> <td>H26</td> <td>10</td> <td>1,247,283千円</td> </tr> </table>				H	事業数	決算額	H	事業数	予算額	H25	9	304,026千円	H26	10	1,247,283千円
H	事業数	決算額	H	事業数	予算額																				
H25	9	304,026千円	H26	10	1,247,283千円																				
<p>分析 羽田や名古屋線などの国内線及び熊本～台湾間で過去最高となる115便のチャーター便実施や、韓国からのインバウンド増等により増加した。</p>		<p>iii 熊本駅の乗降客数 〔万人〕</p>				893 (H23推計値)	920 <100.0%>	973 <105.8%>	920 〔万人/年(単年)〕	<p>【満足度】</p> <p>H26 3.7 10.1 67.1 13.7 5.4 H25 3.4 11.0 59.9 16.3 9.4</p> <p>【今後の方向性】 10.9 (49.1%) (4位)</p>															
<p>分析 新幹線の利用者増などにより、熊本駅全体の乗降車数が増加した。</p>		<p>iv 幹線道路の整備進捗率(供用率) 〔%〕</p>				41.5 (H23)	41.5 <83.0%>	43.1 <86.2%>	50.0 〔%/年(単年)〕	<p>◆ 世界的な熊本駅をめざす ～熊本駅周辺地域の魅力向上～ 【担当部局：企画振興部・土木部】</p> <table border="1"> <tr> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>3</td> <td>10,766,161千円</td> <td>H26</td> <td>3</td> <td>3,486,126千円</td> </tr> </table>				H	事業数	決算額	H	事業数	予算額	H25	3	10,766,161千円	H26	3	3,486,126千円
H	事業数	決算額	H	事業数	予算額																				
H25	3	10,766,161千円	H26	3	3,486,126千円																				
<p>分析 九州中央自動車道の嘉島JCT～小池高山IC間、L=1.8kmが供用開始し、着実に整備が進むとともに、災害時の交通ルートの確保、国道443号等の現道における重大事故のリスク軽減などが確保される。</p>		<p>◆ すべての道はくまもとに通じる ～幹線道路ネットワーク等の整備～ 【担当部局：商工観光労働部・土木部】</p> <table border="1"> <tr> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>13</td> <td>7,524,604千円</td> <td>H26</td> <td>13</td> <td>8,332,642千円</td> </tr> </table>				H	事業数	決算額	H	事業数	予算額	H25	13	7,524,604千円	H26	13	8,332,642千円	<p>【満足度】</p> <p>H26 4.4 12.5 56.4 17.1 9.6 H25 4.6 12.3 51.7 20.9 10.5</p> <p>【今後の方向性】 7.9 (42.8%) (2位)</p>							
H	事業数	決算額	H	事業数	予算額																				
H25	13	7,524,604千円	H26	13	8,332,642千円																				
<p>分析 九州中央自動車道の嘉島JCT～小池高山IC間、L=1.8kmが供用開始し、着実に整備が進むとともに、災害時の交通ルートの確保、国道443号等の現道における重大事故のリスク軽減などが確保される。</p>		<p>◆ すべての道はくまもとに通じる ～幹線道路ネットワーク等の整備～ 【担当部局：商工観光労働部・土木部】</p> <table border="1"> <tr> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>13</td> <td>7,524,604千円</td> <td>H26</td> <td>13</td> <td>8,332,642千円</td> </tr> </table>				H	事業数	決算額	H	事業数	予算額	H25	13	7,524,604千円	H26	13	8,332,642千円	<p>【満足度】</p> <p>H26 3.8 13.6 58.1 15.7 8.8 H25 4.7 11.2 54.1 18.5 11.5</p> <p>【今後の方向性】 6.0 (41.2%) (1位)</p>							
H	事業数	決算額	H	事業数	予算額																				
H25	13	7,524,604千円	H26	13	8,332,642千円																				

No.	(5)平成25年度の主な成果	(6)平成26年度の推進方針・推進状況	(7)問題点(隘路)・課題	(8)今後の具体的な方向性
<p>施策52</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「道州制シンポジウムin熊本」が開催され、道州制や州都についての周知啓発を実施</li> <li>九州地方知事会や「道州制推進知事・指定都市市長連合」により、道州制に関する国への要請活動を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>本県での道州制シンポジウム開催の誘致をはじめ、機会を捉えて道州制や州都に関する周知啓発を実施</u></li> <li><u>道州制についての九州の考え方を国の議論に反映できるよう努め、全国知事会でも議論を深化</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民アンケート結果等によると、県民の理解が進んでいないため、様々な機会を捉えて周知啓発を行う必要あり</li> <li>道州制に対する様々な意見があることから、国の動向を見据えつつ丁寧に議論を進める必要あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道州制シンポジウム開催の誘致をはじめ、道州制や州都についての周知啓発を実施</li> <li>市町村との意見交換を実施し、地方の立場から道州制議論を深化</li> </ul>
<p>施策53</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県・熊本市、熊本大学、経済界が連携し、新たな熊本の都市イメージを「学モン都市クマモト」として首都圏を中心に広報展開</li> <li>スポーツイベント7件(約18,000人の宿泊)、大型コンサート2件(約18,000人の集客)、映画ロケ1件を誘致</li> <li>市町村との意見交換等を経て、「くまもと移住定住促進戦略」を策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>首都圏広報に続き、「農商工連携」「医工連携」等のテーマについて、新たな連携事業の構築に向けた検討を実施</li> <li>助成事業を最大限活用し、本県へのスポーツイベント、大型コンサート、映像作品制作の誘致を強化</li> <li><u>くまもと移住定住促進戦略推進協議会の設立など、戦略を踏まえた具体的施策を展開</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現テーマ以外の新たな都市戦略を検討し、具体的な取組につなげていく必要あり</li> <li>誘致にあたり、充実度、交通アクセスに勝る福岡市の施設との競合や誘致効果の県下全域への波及が課題</li> <li>県内各地域で移住定住に関する様々な取組が展開されているが、その取組意識に大きな差が見られる状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>更なる拠点性につながる新たなテーマを創出</li> <li>在九州の大手音楽プロモーターへの制度のPR実施や市町村との連携の推進</li> <li>協議会で共通課題の解決に向けた検討等を行い、市町村で具体的な移住定住施策を展開</li> </ul>
<p>施策54</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジアナ航空の週5便化実現に向けた知事トップセールス等の結果、10月にソウル線就航後初となる5日連続便が実現</li> <li>台湾線に関する知事トップセールスや熊本PRの結果、連続50便を含む過去最高となる115便のチャーター便が実現</li> <li>台湾チャーター等の増加により、阿蘇くまもと空港の利用者が目標の300万人を達成</li> <li>空港ライナーの本格運行に向けた実証実験などを通じ、利用者が年間平均171人/日と着実に増加</li> <li>県の支援により、航空大学校と崇城大学との協力協定が締結され、パイロット養成機能が強化</li> <li>阿蘇くまもと空港の防災拠点化に向けたエプロン整備に係る測量、各種調査、基本設計・実施設計を実施</li> <li>阿蘇くまもと空港周辺駐車場及び第2空港線沿いの農地法・農振法等法令違反者に対する是正指導を益城町等と実施</li> <li>年間約90回のパトロールによる違反広告物の設置防止を通じ、H24年度に改善された第2空港線沿線の景観を維持</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>5便化に向けた更なる利用促進。旅客船事故による韓国からの需要減退が懸念されたが、7月に入り回復傾向</u></li> <li><u>新規路線開設を目指しエアポートセールスを実施した結果、10/26からの熊本・高雄間定期チャーター便が決定</u></li> <li>国内LCC誘致を含む国内路線振興により、ジェットスター・ジャパンの新規就航及びJAL東京線の増便が決定(10/26～)</li> <li>利用者数増加に向けた広報活動の強化</li> <li><u>熊本のパイロット養成拠点化に関する航空会社へのPR、学生誘致等広報活動の実施</u></li> <li><u>エプロンの整備工事の着手と年度内竣工</u></li> <li>農地の違反開発事案等に対する定期的な是正指導を益城町等と実施</li> <li>引き続き第2空港線沿線のパトロールを強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪韓日本人の減少。アウトバウンドの促進とインバウンド需要の拡大を図る必要あり</li> <li>定期チャーター便の利用促進が必要</li> <li>県内初のLCCであるジェットスター・ジャパンの認知度向上や各国内線の利用促進</li> <li>更なる利用者数増加のための広報活動が必要</li> <li>阿蘇くまもと空港及び天草空港が、パイロット養成に適した施設であることのPRが不足</li> <li>平時でのエプロンの利活用の検討が必要</li> <li>景観保全を含めて、空港周辺及び第2空港線沿いの優良農地を良好な状態で確保・保全していくことが必要</li> <li>第2空港線沿線の景観保全を図るためには、民間駐車場に対するパトロールの継続が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定的なアウトバウンド、インバウンドの送客需要確保に向けた観光資源のPRや各航空便の利用促進</li> <li>県内ではLCCの特長や就航地の交通アクセスの周知、県外では路線の周知や熊本の観光資源のPR等を実施</li> <li>利用者数増加に向けた、豊肥本線や鹿児島本線沿線又は県外への広報活動の強化</li> <li>崇城大学と連携したパイロット養成機能の強化や出前講座の実施等によるPR活動の強化</li> <li>防災用エプロンを使用した訓練の実施等による利活用の推進</li> <li>地元農業委員会の農地パトロール等による初期対応を通じた違反事案発生の防止</li> <li>第2空港線沿線の景観維持のため、民間駐車場に対するパトロール強化を継続</li> </ul>
<p>施策55</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H24年度整備済みの石塘の利活用促進のための地元協議会の設置に向け、熊本市で取組を推進</li> <li>万日山を都市公園として4月に供用開始し、適正な維持管理を実施</li> <li>在来線熊本駅舎で県産材を使用した上り線ホームの上屋が完成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>熊本市の地元協議会設置に向けた取組等を支援</li> <li>除草等の維持管理及び巡回警備の実施による適正な管理</li> <li><u>高架化工事を推進し、H26年度末に熊本駅部の上り線の約2kmの高架切替を実施</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>熊本市が進める取組の進捗や成果を踏まえ、石塘の利活用に向けた取組について再度検討が必要</li> <li>崖崩れ等の災害発生時には、早急な復旧等の対応が必要</li> <li>熊本駅部の上り線の円滑な高架切替に向けた関係各事業者との工程調整が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>熊本市の地元協議会設置に向けた取組等を支援</li> <li>日頃からの適正な維持管理及び緊急連絡体制の構築による災害への迅速な対応</li> <li>熊本駅部下り線の早期供用に向けた埋蔵文化財調査や高架化工事の推進</li> </ul>
<p>施策56</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>九州中央自動車道の嘉島JCT～小池高山IC間(L=1.8km)が3月に供用開始され、住民の利便性が向上</li> <li>南九州西回り自動車道の芦北IC～(仮称)津奈木IC間(L=7.7km)のH27年度供用開始に向けて事業を促進し、国において着実に推進</li> <li>中九州横断道路の滝室坂道路の事業化を国に要望し、国において事業化</li> <li>国道57号線の南阿蘇村立野～大津町瀬田間(L=2.5km)のH26年度の追加供用開始に向けて事業を促進し、国において着実に推進</li> <li>熊本天草幹線道路の本渡道路の事業化が決定し、調査・測量に着手</li> <li>ガントリークレーンの整備、プサン航路の2便化に伴い、熊本港のコンテナ取扱量が前年度比31.7%増加</li> <li>熊本都市圏の物流機能強化に向け、熊本港の水深7.5m岸壁取付部の整備を完成し、水深7.5m航路・泊地、土砂処分場等の整備を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小池高山IC～(仮称)北中島IC間(L=10.8km)のH30年度供用開始に向けた事業促進</li> <li>(仮称)津奈木IC～(仮称)水俣IC間L=5.6kmのH30年度供用開始に向けた事業促進</li> <li>熊本市～大津町間について、国の事業化に向けた計画段階評価が早期完了するよう、国への働きかけを実施</li> <li>国道57号線の南阿蘇村立野～大津町瀬田間(L=2.5km)をH26年度に追加供用開始</li> <li>大矢野BPの整備推進及び本渡道路の用地買収着手に向けた調査設計の推進</li> <li><u>コンテナ取扱量拡大のため、企業訪問強化などによる認知度向上、増便・新規航路開設による利便性を向上</u></li> <li><u>物流機能の強化に向けた航路や防波堤の整備とともに、港湾機能の保持に必要な浚渫や補修等の実施</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路整備予算の安定的な確保及び全ての用地取得</li> <li>道路整備予算の安定的な確保、全ての用地取得及び埋蔵文化財調査の促進</li> <li>事業化に向けた計画段階評価手続きの加速に備え、関係機関との連絡強化が必要</li> <li>供用開始に向けた関係機関との調整が必要</li> <li>道路整備予算の安定的な確保及び計画的な用地取得が必要</li> <li>貨物量拡大のための大口荷主を始めとする既利用企業の貨物量維持及び未利用企業の利用開始が課題</li> <li>港湾機能の保持のための計画的な維持管理が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H30年度供用開始に向け整備が促進されるよう要望を実施</li> <li>事業化に向けて関係機関との密な連携(事前の情報提供、調整等)及び国の調査検討への協力</li> <li>関係機関との調整を実施</li> <li>大矢野BPの用地取得及び工事の推進、本渡道路の調査設計及び用地取得の推進</li> <li>コンテナ取扱量の着実な増加及び新規航路開設の推進</li> <li>既存施設を適切に維持管理しつつ、取扱貨物の動向や利用状況に応じた必要な整備を検討</li> </ul>